

ホタテガイ採苗速報

早い所で西湾では今週末、東湾では6月下旬から間引きができる見込み

1 各地採苗器への付着状況

6月9日～10日に行った全湾臨時付着稚貝調査の結果は、表1(別表)および図1～図3のとおりで、ホタテガイ稚貝の平均付着数は、西湾で133,925個/袋、東湾で853,614個/袋と、第1回付着稚貝調査時(それぞれ87,838個/袋、238,155個/袋)よりも多くなっています。

稚貝の平均殻長は西湾で0.83mm、東湾で0.78mm(第1回付着稚貝調査時はそれぞれ0.52mm、0.58mm)でした。

キヌマトイガイは全湾平均で457,855個/袋、ムラサキイガイは全湾平均で242,124個/袋と、第1回付着稚貝調査時(それぞれ134,343個/袋、16,794個/袋)よりも多くなっています。

なお、ヒトデとウミセミの付着はほとんど見られませんでした。

表2 各ブイの1週間(6/6～6/12)の日平均水温

観測地点	水温(°C)	観測地点	水温(°C)	観測地点	水温(°C)
平館ブイ	11.5～15.5	東田沢ブイ	-	横浜ブイ	8.7～15.8
蓬田ブイ	12.5～15.5	清水川ブイ	9.1～15.5	浜奥内ブイ	10.7～15.8
奥内ブイ	-	野辺地ブイ	-	川内ブイ	11.3～15.4
青森ブイ	10.5～16.0	東湾ブイ	8.7～15.5	脇野沢ブイ	9.2～15.3
浦田ブイ	9.9～15.9				

-:欠測

2 海況

各ブイの6月6日～12日の平均水温は、表2のとおりです。

平年と比較すると、平館ブイの15m層でやや高め、青森ブイと東湾ブイの15m層で平年並となっています。

3 今後の見込み

間引き後に適正な付着数にするためには、確実に目でホタテガイと確認できるサイズ(殻長2～3mm)になってから間引きを行う必要があります。ただし、付着数が非常に多い採苗器は、稚貝の成長が悪くなり、8月上旬までに稚貝採取ができない可能性があるため、目で見えるサイズ(殻長1～2mm)になったら採苗器の一部を間引きしてください。

早い所で西湾では今週末から、東湾では6月下旬から殻長1～2mmサイズでの間引きができる見込みです。

ヒトデのブラキオラリア幼生がわずかに見られていますが、今後大量に付着する可能性は低いと思われます。また、ウミセミによる食害を防ぐため、穴の開いた袋は使わないようにしてください。

6月24日に第2回全湾一斉付着稚貝調査(間引き前の上、中、下段と間引き後の中段、合計4袋)を行いますので、稚貝採取時期については6月27日発行の採苗速報第11号を参考にしてください。

※袋替えおよび間引き作業の注意点

- ・採苗器の状況を十分に把握する(稚貝の付着数は地域、垂下水深、投入時期等によって異なる)。
- ・稚貝へのショックは出来るだけ少なくする(間引きを行う場合は、流網などの付着基質を上下に振るだけにして船べり等に叩き付けない)。
- ・採苗器へ残す稚貝の数を自分の目で確認しながら適正にする(2万個以下になるように)。
- ・作業後は、施設を安定させる。
- ・ヒトデの付着が見られるときは、結び目をよく洗う。

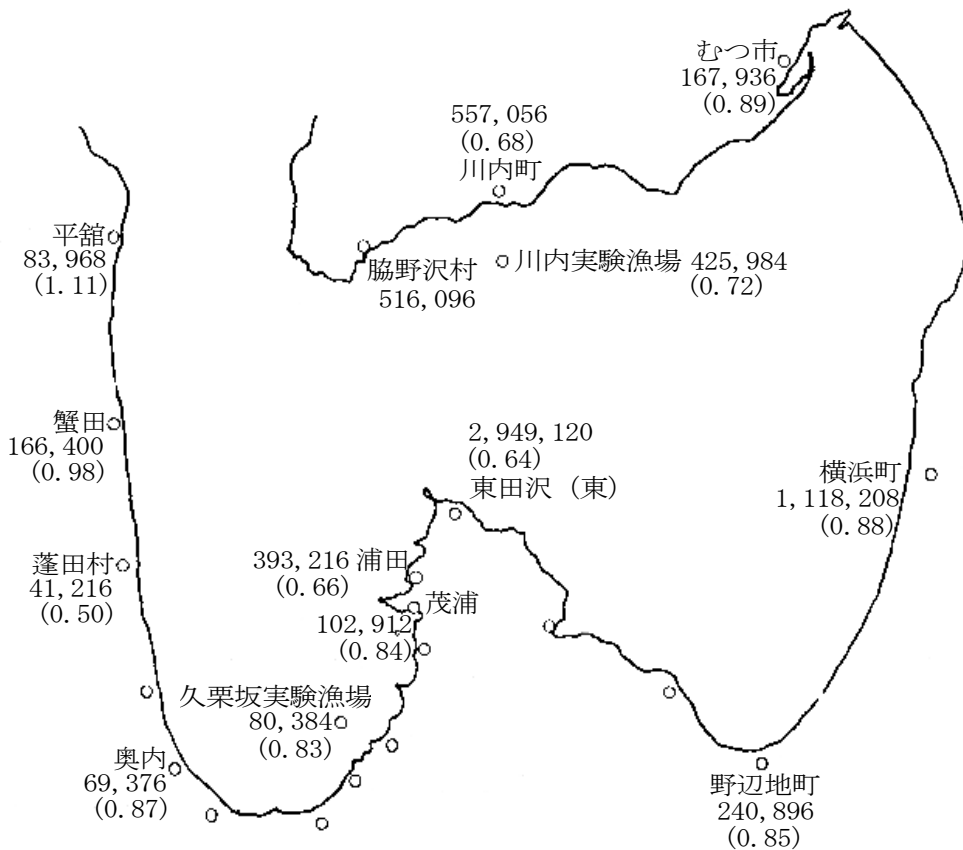


図1 調査地点毎のホタテガイ付着数[単位: 個/袋(平均殻長mm)]

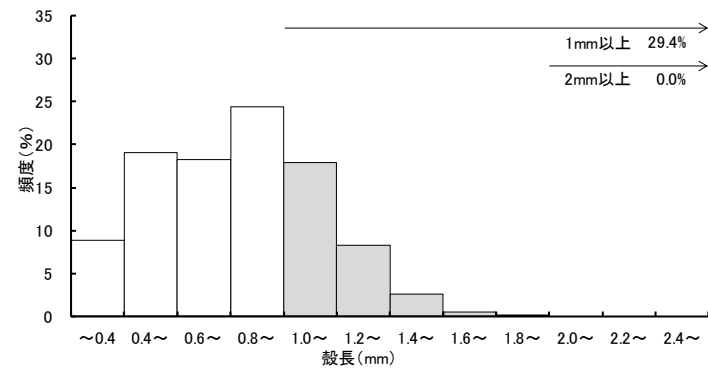


図2 臨時付着調査時のホタテガイ殻長組成(西湾平均)

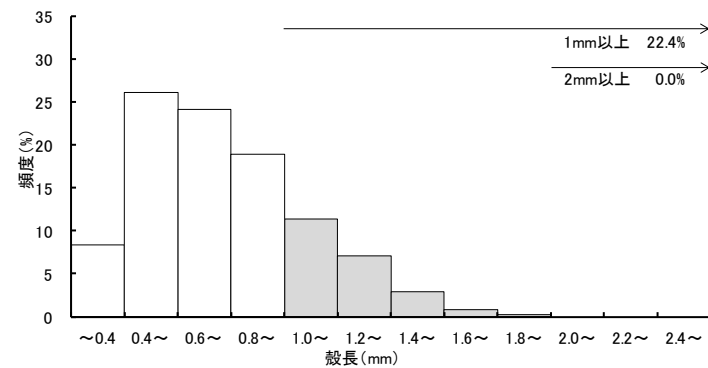


図3 臨時付着調査時のホタテガイ殻長組成(東湾平均)

